

社会教育クローズアップ

コミュニティ・スクールオンライン研修会を実施しました

2月8日(木)に、社会に開かれた教育課程の実現に向け、コミュニティ・スクールの取組におけるPDCAサイクルの理解を深めるため、コミュニティ・スクールオンライン研修会を実施しました。北海道本別高等学校教頭 小林 央 氏が取組発表を行いました。

コミュニティ・スクールの取組におけるPDCAサイクル

北海道本別高等学校のコミュニティ・スクールにおける取組を紹介します。

テーマ1：学校運営協議会の組織

本別高等学校の学校運営協議会には3つの部会があり、それぞれ次の役割を担い、成果を挙げています。



本別高等学校 HP

【とち創生学部会】とち創生学（探究の時間）の推進

（成果）探究活動の内容充実に向け、授業に係る地域人材を挙げました。

【異校種間連携部会】小中学校と高校の連携促進

（成果）町内の小中学校と高校の探究活動につながりを持たせることが協議されました。

【地域連携部会】地域貢献活動（ボランティア、イベント等への参加）の推進

（成果）高校生が地域行事にボランティアとして関わることが協議されました。

テーマ2：学校運営協議会の取組

昨年度、学校運営協議会委員を対象とした研修に、本別高校探究総合アドバイザーの藤井 雅巳氏を講師に迎え、実施しました。運営協議会委員がコミュニティ・スクールや総合的な探究の時間の意義を理解する機会となりました。



アドバイザーの藤井氏

テーマ3：学校運営協議会の今後

学校運営協議会において、学校の情報発信に力を入れる方向性が確認され、町の広報紙や議会だよりを活用し、情報発信を行いました。今後も、町と連携して情報発信を継続的に行い、学校を応援してもらえる体制づくりにつなげていきます。

また、本別高等学校の探究の時間「とち創生学」において、大人と高校生が協働して課題の解決を目指しています。探究活動は、学校と地域の双方にとって意義があることから、学校運営協議会も、授業に係る地域人材を挙げるなど、継続して関わっていく予定です。



議会だより

テーマ4：学校運営協議会の推進に向けて

小林氏から、学校運営協議会の推進に向け、3つのポイントが示されました。

- ・学校運営協議会は、生徒を中心に据えて、「何ができるか」を協議する場であることが大切
- ・学校運営協議会は、学校と地域がつながり、教育活動の充実のヒントを与えてくれる存在
- ・学校のビジョンを共有し、運営協議会委員と対話を重ねることが大切

コミュニティ・スクールの制度を活用することで、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。



広報ほんべつ



本別議会だより

【発行・お問合せ先】

北海道教育庁十勝教育局

北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班（田尾・皆川）
住所：〒080-8588 帯広市東3条南3丁目
電話：(0155) 26-9243（直通） 平日 8:45～17:30
E-mail：minagawa.keita@pref.hokkaido.lg.jp